



ぶんりだより

東京文理学院高等部
令和四年度 第四号
発行日 令和四年十二月十五日

「文化祭を終えて」

学院長 小野塚 雅信

季節の移り変わりを体感できる華やかな階段アート。透過した光がフロアを幻想的に彩る窓一面のステンドグラス。凝った入口装飾が来場者を別世界へと誘うクラス企画教室。森の動物たちのかわいらしい装飾がステージ発表に華を添える五階大教室。部活や選択科目で創った力作がところ狭しと並ぶ展示作品教室。短い準備期間ながらも全員が一致団結して作品創りに取り組んでくれたおかげで、二日間にわたって素晴らしい文化祭を開催する事が出来ました。

今年度の文化祭は、保護者の方や卒業生にも自由に見学をしてもらう事が叶いました。接客を伴う文化祭はどの学年も未経験でしたので一抹の不安を抱きましたが、当日はどの教室に行っても、明るい挨拶や気持ちのこもった丁寧な企画説明で和ませてくれましたし、皆さんの堂々と接客をする姿には本当に胸が熱くなりました。慣れない接客や人前でのステージ発表に不安を覚えた人もいたと思いますが、勇気を出して行動に移した結果、予想以上の達成感を得られた人が多いはずです。またひとつ出来る事が増えましたね。

そして今年度は、「環境にやさしく・無駄が少ない文化祭」を新たなテーマとして掲げました。現在、世界では自然破壊や気候変動等、様々な問題が起きていますが、解決する為には、一人ひとりがこういった地球規模の問題を、自身の問題として関心を持つ事が大切です。各企画はまさにこの問題にきちんと向き合ってくれていました。廃材を上手に加工して立派な作品に仕立てた企画や、次年度も使用出来る素材を多く取り入れながら作品を完成させた企画ばかりでしたね。お金をかけなくても皆が意見を出し合って工夫を凝らせば、これだけの素晴らしい作品を創る事が出来る。こういった経験と意識が、環境を守り存続させていく事に繋がるはずです。準備期間から含めて本当に価値のある行事になりました。

令和四年もいよいよ幕引きが近づいてきました。なかなか先が見通せない大変な一年間ではありましたが、思考を巡らせながら多くの物事に挑戦が出来た年でもありましたね。何気ない日常生活の大切さや、人と時間を共有出来る喜びを、ゆつくりと振り返りながら新年の幕開けを待ちましょ。

新年が皆さんの可能性を更に広げる一年になる事をこのころから願っています。

行事予定

一月

- 六日 学年集会
- 十四日 第三回英語検定(希望者)
- 十九日・二十日 卒業試験
- 二十日 第三回漢字検定(放課後)
- 二十三日～二十七日 通信制試験対策
- 二十九日・三十日 通信制試験
- 三十一日 一・二年 試験休み
- 三年 自主登校開始



二月

- 一日 一・二年 進路説明会
- 四日 二年 模試(大学希望者)
- 六日～十日・十三日・十四日 一・二年 三者面談
- 十五日 第四回保護者役員会
- 二十二日・二十四日 一・二年 学年末試験
- 二十七日 一・二年 試験休み
- 二十八日 一・二年 試験返却日

(～三月二日)

三月

- 一日 一・二年 大掃除
- 二日 一・二年 試験休み
- 三日 卒業式
- 六日 一・二年 試験休み
- 七日 一・二年 修了式
- 十三日～十六日 一・二年 春期講習



新型コロナウイルスの影響で、予定が変わることもございます。予めご了承ください。

研修旅行



一年生、二年生が研修旅行に行つて来ましたので、ご報告いたします。

一年生は、十月十日から十二日まで福島県での林間学校に行きました。会津の歴史を学んだり、赤べこの絵付けやいわなのつかみ取りをしたり、様々な体験をしました。

二年生は、十月十三日から十四日まで同じく福島県でのスクーリングに行きました。鍾乳洞や水族館で楽しむだけでなく、企画展では震災体験コーナーもあり、改めて震災の悲惨さを実感しました。

一年生、二年生共に宿泊を伴った行事は初めてでした。友人たちと寝食を共にし、ひと回り成長できたことが生徒たちの作文から伝わってきます。



一年一組 川崎 涼雅

今回の林間学校で私が最も思い出に残ったことは、会津藩校日新館見学です。日新館は、私が事前学習で調べていたこともあり、林間学校に行く前からとても興味を持っていました。

日新館に到着し、初めに階段を登り南門に行くと、そこからは言葉に表せないような美しい景色が広がっていました。南門をくぐり、先生の話が終わると、次は鯉の餌やりをしました。餌を買って鯉のいる池のそばに立つと、まだ餌をあげていないのに自分の近くに沢山の鯉が群がってきたので驚きました。餌をあげると、バシャバシャと音を立てながら勢いよく食べ始めました。餌やりを終え、続いて東塾に行きました。そこでは、日新館に通っていた生徒たちがどのように授業を受けていたのか、また、どのようなことを勉強していたのかを学びました。意外にも現代の授業と似ているところもあり、先生が言った言葉に合わせて生徒も同じ言葉を音読するという、現代の英語の発音練習などに使われる方法を使って日新館の生徒たちも勉強していたことを知りました。

会津藩校日新館の見学は、自分にとって初めは興味が湧かないことであっても、実際に調べたり、その場所を訪れて体験したりすることで、強い興味を抱かせてくれるということを知る良い経験になりました。

一年二組 江口 優羽

十月十日(月)から十二日(水)に二泊三日の福島県での林間学校を行いました。

林間学校に行く前は、宿泊行事に参加することがとても不安で、良い思い出が作れるのか、心配な気持ちでいっぱいでした。さらに、高校生で初めての宿泊行事ということもあり、クラスメイトと協力して三日間を過ごせるのか不安でした。勇気を振り絞り、参加した一日目は、体育でバスケットボールを行いました。見学をしましたでしたが、楽しそうに試合をするクラスメイトを見て、次の体育は参加したいと感じました。

二日目は、赤べこの絵付け体験、磐梯山噴火記念館・日新館・鶴ヶ城見学を行いました。その中で一番印象に残ったことは、鶴ヶ城の見学です。なぜなら、調べ学習の段階でも興味があり、行ってみたいと思っていたからです。実際、建物の中はすぐきれいでした。リニューアル中のため、すべては見られませんでした。完成が楽しみです。

三日目は、いわなのつかみ取りと餌やりを行いました。イワナのつかみ取りは、正直やりたくないと思っていました。しかし、実際にやってみると、「なんだ、案外いけるな」と思いました。いわなをつかんだ時、暴れなくてほっとしました。その後、昼食で取ったいわなを食べました。とてもおいしかったです。

あつという間に三日間が終わり、始めにあった不安もいっしょになくなっていました。今回の宿泊行事で時間が守れなかつたことがありましたが、その反省は次回の行事や日常生活に活かしていきたいです。宿のご飯もおいしくて幸せでしたし、珍しい体験をたくさんすることもできて最高の林間学校でした。

一年三組 村上 竜空

令和四年十月十日から十二日に福島県に林間学校へ行きました。高校生活初めての宿泊行事だったため、前日からとても緊張していました。

一日目は集合場所からバスに乗りました。福島までの道のりはとても長かったのですが、クラスメイトと話したり、先生のおもしろい話を聞いたり長かった割には楽しかったです。着いて、まず体育をしました。体育はバスケットボールで試合をしました。二試合とも負けて悔しかったです。その後は宿に到着し、同じ部屋の人とトランプをするなどして過ごしました。

二日目は、まず宿で赤べこの絵付けをしました。色々と考えながら塗るのは難しかったです。おもしろかったです。それからバスに乗り、磐梯山噴火記念館に行きました。噴火の様子ビデオを見てみると床がいきなり揺れ出してびっくりしました。また、噴火の時の破片などが展示されていてとても勉強になりました。昼食後、会津藩校日新館に行きました。白虎隊が育った場所だと知り、白虎隊の歴史を感じることができました。最後に鶴ヶ城に行きました。プロジェクトンマップ

ングの映像はともきれいでした。また、城の中は戦術の工夫などを先生が教えてくれたためになりました。その後はお土産を買い、宿に戻りました。

三日目は、いわなのつかみ取りとエサやりをしました。いわなのつかみ取りは、学年で最初にしたということもあり、とても素早く、一匹も捕まえられませんでした。その後、昼食でいわなの塩焼きを食べたのですが、とてもおいしかったです。

今回の林間学校では、クラスのまとまりを感じ、クラスメイトのこともとてもよくわかりました。今後の学校生活や行事では、この経験を活かしていきたいと思います。

一年四組 赤池 秀斗

僕が林間学校に行つて印象に残ったことは、二日目の赤べこの絵付け体験です。下塗りを終えた赤べこに表情や模様を描いていくのですが、なかなか思い通りに色が塗れず、苦戦しました。このような難しい絵付けをされている職人の方々の技術は、本当に素晴らしいと感じました。

絵付け体験をしたことで、赤べこのような伝統工芸を無くさないために何ができるかを考えました。そして、僕にできることは、今回体験した赤べこについてもっと詳しく知ることだと思いい、赤べこについて改めて調べてみました。

赤べこは丸みを帯びたフォルムと首がゆらゆらと揺れる動きがかわいらし

く、今日では日本だけでなく海外でも人気が高いそうです。また、古くから厄除けのお守りや縁起物として親しまれており、その理由は、赤い色が魔除けや疫病除けとされたことや、かつて会津に疱瘡が流行ったときに『赤べこ伝説の牛が身代わりになって守ってくれる』という願いを込めたものであることもわかりました。

他にも、三日目の岩魚のつかみ取りでは、都会ではできない自然ならではの体験ができ、楽しかったです。

林間学校を通して、様々な初めての体験から多くのことを学ぶことができ、本当に良かったです。

二年一組 相馬谷 晴香

十月十三日、十四日の二日間をかけて、福島県に大智学園のスクーリングに行つてきました。

一日目は、いわなの郷でBBOを行

い、その後あぶくま洞に行きました。

BBOでは、普段一緒に過ごしているクラスメイトと協力をして、野菜やお肉を焼いて食べましたが、日常ではなかなか経験できないので、楽しい時間が過ごせました。

続いてあぶくま洞に行きました。これまで洞窟には一度も入ったことが無く想像がつかなかったのですが、鍾乳洞がとても綺麗で感動しました。特に、滝根御殿というあぶくま洞最大のホールでは、様々な鍾乳石を見ることができ、面白かったです。二日目は、アクアマリンふくしまという水族館に

行きました。環境水族館ということもあり、今まで行った水族館とは全く違う雰囲気です。とても新鮮でした。中でも、「海・生命の進化」というブースでは、現在に生き残っている水の中の生きた化石の紹介がされていて、貴重な生物を見ることができ、良い経験となりました。

二年二組 岩松 昭衛

今回のスクーリングを通して、今まで知らなかった知識を得たり、多くの経験を積んだりすることができ、とても思い出に残る宿泊行事となりました。

十月十三日、私にとっては、中学の頃から含めて考えると、だいたい三年ぶりとなる宿泊行事となりました。

いわなの郷でのBBOや、あぶくま洞の鍾乳洞探検、そして、アクアマリンふくしまの海洋学習など、一泊二日という短い期間ではありましたが、最高の思い出となる楽しいスクーリングでした。

今回のスクーリングで私が特に印象的だったのは、ホテルで過ごした時間です。普段よく話をしている仲の良い友人たちとは、ほとんど別々の部屋になり、一緒にいて話をする友人は一人だけだったので、とても不安でしたが、同室になつたクラスメイトとも、共に食事やお風呂、そして自由時間を過ごすことで、徐々に話が出来るようになっていき、最後には仲の良い友人と同じような感覚で話が出来るまでになりました。

今回、普段あまり話をしないクラスメイトとも話をする事が出来たことは、本当に良い機会になったと思えました。

二年三組 磯 悠介

十月十三日から一泊二日、高校生活初めての宿泊行事に行つてきた。

一日目、まず我々が向かった場所は「いわなの郷」。そこでバーベキューをした。あまり十分な時間が無かった為、効率よく、野菜類をプレートの上に置き、中央には肉を置いた。想定していたことだったが、案の定、肉の取り合いになった。最後に焼きそばを作り、時間が来てしまった。少ない時間だったが、楽しい時間だった。

次に向かった場所は「あぶくま洞」。日本でも有名な鍾乳洞がある場所、色々な形の鍾乳石がライトアップされており、とても綺麗だった。

そんなあぶくま洞を後にし、今回宿泊する「ホテル美里」へ向かった。ホテルの夜ご飯は、おいしかったが、量が多く、バーベキューでたくさん食べてしまった私は、完食するのが大変だった。そして自由時間では、部屋のメンバー全員でUNOやババ抜きなどをして、二時間があつという間に過ぎ、就寝時間となつてしまった。

二日目、今回最後に行つた場所は「アクアマリンふくしま」。課題が多く、すべてやり切れることは出来なかったが、友人と楽しく水族館を見て回ることが出来た。近くの「ら・ら・ミュウ」でお土産を買い、帰宅のバスに乗り込んだ。高校生で初の宿泊行事は、様々な経験が出来、長いバスの時間も含めて、とてもいい思い出になった。

スクーリングで福島県に行ってきました。

一日目は、バーベキューとあぶくま洞に行き、バーベキューでは、班の皆と楽しく過ごすことが出来ました。そのあと行ったあぶくま洞は、初めて行く場所なので、行く前はどんなところなのか気になっていました。入ってみると、自分が想像していたよりも気温が低く、びっくりしました。中に進んでみると、景色がとても綺麗で、美しかったです。

二日目では、水族館とお土産屋さんに行きました。水族館内では自由行動だったので、仲の良い友達と周ることが出来、また魚たちも綺麗で楽しく過ごすことが出来ました。お土産屋さんでは、時間が少なく選ぶのに苦戦しましたが、友達とお揃いの物が買えたので良かったです。

今回のスクーリングという行事は、とても充実した楽しいものとなりました。



文化祭



十一月十九日(土)・二十日(日)、第二十七回紅葉祭が開催されました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点によって規制の多い中で実施された昨年度とは違い、一日目、二日目共に、生徒はもちろんのこと、たくさんの方の保護者や見学者の方々にご参加いただきました。

「英華発外」皆で作ろう笑顔溢れる紅葉祭」をスローガンに、各クラスの展示企画やゲーム企画、選択科目や部活動の作品・動画が披露され、今年度はステージ発表も行われました。また、実行委員の皆さんが春夏秋冬をテーマに校舎に華やかな装飾を施してくれました。どの団体も協力して活動に取り組み、今年も素敵な紅葉祭を作り上げてくれました。



文化祭を終えて

内野 慎一朗

今年度の紅葉祭は、様々な制限下での開催でしたが、久しぶりにゲーム企画とステージ発表が復活し、大変活気のある二日間となりましたね。

今年の紅葉祭のスローガンは「英華発外」皆で作ろう笑顔溢れる紅葉祭」でした。どのクラスも、生徒一人ひとりの内面に秘めた才能や美しさが存分に発揮された唯一無二の企画で、短い期間でありながらも集中して取り組んだ成果がよくあらわれていました。また、実行委員の生徒の活躍も素晴らしいものでした。

本部の生徒によるプログラム作成やカウントダウンボードの掲示、玄関に掲げられたスローガン。デコレーション担当生徒によって飾られた鮮やかな階段装飾。そして、五階大教室には森をテーマにした壮大な飾りつけで、ステージ発表を大いに盛り上げてくれました。実行委員会が文化祭の地盤となり、強く支えてくれていることを、改めて実感しました。

今回の文化祭を通して、多くの生徒が達成感や充実感を感じることができたはずです。それは、「文化祭を絶対に成功させる」という強い思いを一人ひとりが持ち、皆で協力し合いながら成し遂げたからこそ得られたのです。

これらの経験を今後の学校生活への糧とし、更なる成長に繋げていってくださることを期待しています。本当にお疲れ様でした。

文化祭実行委員長より

三年三組 三瓶 真

文化祭の終わりと共に、秋も終わりを告げ、段々と寒い冬が近づいてきました。三年生も徐々に進路が決まり、いよいよ卒業が近づいてきていることを実感しています。

今年の文化祭は、例年とは違い、大教室のステージ発表や生徒が接客をするなど、新型コロナウイルスによって規制されていたものが緩和され、本来の文化祭に近い形で開催されました。

例年より短い準備期間の中で、初めてのゲーム企画は試行錯誤の連続だったと思いますが、どの企画も一生懸命に準備を進め、無事に当日を迎えることができました。特に、三年生にとっては最後の文化祭だったこともあり、過去最高の企画に仕上がりました。

実行委員長として一緒に作業をしていく中で、特に二年生からは、仕事に対する強い責任感を感じました。後輩に頼られる立場の自覚が伝わり、次年度は最上級生として、皆を引っ張っていかれると確信しました。

一年生は、初めての文化祭に緊張しながらも、楽しみな気持ちで一杯だったと思います。周囲と協力しながら準備を進めていくことは大変なことでもあったでしょうが、東京文理学院の学年目標にもある「他者を認め、今ある環境を受け入れる」を念頭に、先生方のサポートも受けながら成長に繋がられたのではないのでしょうか。

私たち三年生が、行事を通して皆さんと関わる事ができるのも、あとは卒業式のみとなりましたが、今後の行事は後輩たちがしっかり受け継いでくれると信じています。今回の文化祭を通して培った経験を来年度も活かし、より素晴らしい企画を作り上げていくてくください。卒業生として紅葉祭に参加することを楽しみにしています。

一年一組 鈴木 彩巴

初めての紅葉祭、一年一組では東京の街を作り直しました。

私は班の人たちと一緒に東京駅を制作しました。東京駅をダンボールで作ると言われた時は、どのように作ればいいのか分からなかったけれど、班の人たちと意見を出し合いながら作り方を考えました。東京駅は曲線が多かったり、細かい所が多かったりと、難しい題材でした。また、模造紙をダンボールで作った曲線に合わせて切ることも苦労しました。しかし、班の皆で力を合わせて、完成度の高い東京駅を作り上げることが出来ました。

当日は、色々なクラスを周りました。多くのゲームやクイズ、展示などがあり、凄いいいと思いました。特に、二・三年生の先輩方の接客のやり方には感動し、多くのことを学びました。自クラスでの仕事は、お客さんと接する態度や話し方が難しく、あまりうまく出来なかつたように思いますが、先輩方のやり方を参考に、最後までやり切ることが出来たので良かったです。

初めての紅葉祭なので、分からないこともありましたが、良い経験になったと思います。紅葉祭で学んだことを今後活かしていきたいです。

一年二組 宮前 航

十一月十九日と二十日の二日間は、文化祭がありました。当日は他クラスを回ったり、接客をしたりと大変でした。ですが、文化祭当日よりも印象に残っているのが、文化祭前にあった三日間の準備期間です。なぜなら、文化祭当日よりも体力を使ったからです。

私のクラスでは任天堂のゲームをテーマにした装飾を行いました。その一部としてスーパーマリオに登場する土管を作成しました。その土管づくりでは、段ボールを筒状に丸めたものを並べ、周りを緑の模造紙で覆う方法で土管を作りました。しかし段ボールを丸める作業では、段ボールの硬さがそれぞれ異なるため、手が疲れる作業でした。無事に完成した時は、達成感がありました。

文化祭が終わった翌日に、片付けのため土管を解体しました。その時は、少し寂しい思いがありました。作る時よりも、解体するときの方が、力がいらず楽しかったです。

三日間の文化祭の準備期間を振り返ってみると、土管ほど大きなものを工作したことがなかったため、作業の大変さを学ぶことができました。来年の文化祭も準備、当日ともに頑張りたいと思います。

一年三組 高橋 有雄

十一月十九日・二十日に高校生活初めての文化祭が行われました。中学の時に、文理の文化祭の見学をしていなかったため、どのような雰囲気なのか不安でした。しかし、みんな協力して、クラス企画を進めていくうちに、どのような感じになるのか、イメージがついて、楽しく準備を進められました。クラスでは、「フィッシングRPG」というRPGのゲームの世界観で釣りをするという企画をしました。剣を釣り竿に見立てて、クリップやS字フックなどに引っかけて釣る企画です。初級から上級コースと難易度を分けたことが、お客さんにはとても好評でした。また、私も接客は初めてでしたが、何度もやっていくうちに上手くなっていきました。とてもよい企画になったと思います。

また、他のクラスや団体もとてもよかったです。特に演劇部の発表がすごくて、練習をたくさんしたんだろうなあと感じました。

今回の文化祭で一番学んだことは、大きな目標を立ててそれを達成するためには、たくさんの方の労力と時間がかかるということです。来年の文化祭は、さらに細かい計画を立てて、今回の文化祭以上に盛り上げたいと思います。

一年四組 國谷 光星

十一月十九日、二十日に高校になって初めての文化祭が行われました。私は、文化祭実行委員として、本部でプログラムを担当しました。プログラム

の文章を入力したり、内容に合う画像を探すなど、地道な作業で大変でしたが、紅葉祭を盛り上げるために一生懸命頑張りました。プログラムが完成した時は感動しました。得意のパソコンを活かすことができ良かったです。

クラスではボール投げとボール転がしのゲームを企画しました。来場者に楽しんでもらうためにじゃんけんで投げる位置を決めたり、くじでボールの大きさを決めたり、ルールを工夫しました。難しかったのは、ボールを投げる位置の調整でした。クラスメイトとどの位置から投げれば上手くボールが的に入るかを何度も試しました。

文化祭当日は、ゲームの説明を担当しました。初めての接客で緊張しましたが、やってみると意外と上手くできました。予想以上に多く来場者が来てくださり、うれしかったです。担当がない時は友達と他のクラスを回り、文化祭を楽しむことができました。

今年の文化祭はクラスみんなで協力したことが一番印象に残りました。来年の文化祭では今回経験したことを活かし、更に充実させたいと思います。



二年一組 戴 萌香

十一月十九日、二十日の二日間かけて、東京文理学院の文化祭が実施されました。私は、この文化祭で沢山の思い出ができ、中でも印象に残っていることが三つあります。

一つ目は、文化祭の準備期間です。私は黒板の担当でしたが、失敗して消すと汚れが残ってしまうので、プレッシャーを感じていました。しかし、皆と協力して良い作品に仕上がりました。また、天井に吊り下げるUFOの制作にも加わり、試行錯誤して完成させることができました。限られた時間で行う準備は、大変な面もありましたが、皆で協力し合いながら完成できたことが印象に残っています。

二つ目は、自クラスで行った接客対応と各クラスを周ったことです。初めての接客は緊張しましたが、とてもやりがいを感じました。また、今年度はゲーム企画ができるようになり、どのクラスも個性的で楽しめました。皆で写真を撮ったことも良い思い出です。

三つ目は、演劇部の活動です。本番に向けて、長い期間をかけて練習をしてきました。私は「理科」の役を任されておき、部活動以外の時間も読み合わせや個人練習をし、覚えらえるように一生懸命頑張りました。大変なこともありましたが、部員同士で協力し、無事に成功することができました。

今年度の紅葉祭は、昨年度以上に楽しむことができました。来年は、私た

ちにとつて最後の文化祭となる為、無事に実施できることを願っています。

二年二組 藤田 千尋

十一月十九日、二十日に文化祭が開催されました。高校に入学して、二回目の文化祭で私は文化祭実行委員とクラスの企画をやりました。

文化祭実行委員会では、校舎の表階段を学年ごとに春・夏・秋・冬と分け、四季をテーマにステンドグラスをつくりました。私が担当した季節は春と夏で、大きい黒画用紙に鯉のぼりなどの下書きを描いて切り抜くのが大変でした。しかし、クラスメイトと話しながら行い、ステンドグラスも綺麗に貼ることが出来ました。出来上がった装飾を見た時は、文化祭実行委員をやってよかったです。

クラスでは、お菓子の家というテーマで展示企画をしました。私は、窓の装飾を担当しました。まず画用紙を組み合わせ、窓のデザインを下書きし、切り抜きをして様々な色のセロファンを貼りました。同じ担当のクラスメイトと協力し、とてもいいものを作ることが出来たので、嬉しかったです。

去年とは少し変わった文化祭で、ゲームをするクラスもあり、五階大教室では選択科目の発表や部活の発表などもあり、今年は盛り沢山で回り切れないところもあるくらいでした。

作業などは大変でしたが、その分やりがいもあり、とても楽しい思い出になりました。

二年三組 塚原 大翔

十一月十九日・二十日に第二十七回東京文理学院文化祭「紅葉祭」が開催されました。昨年とは違い体験型のクラス企画や五階大教室でのステージ発表もあり、本格的な文化祭になった。二年三組のクラス企画は、空気砲を使った二つのゲームと、海をテーマとしたハーバリウム作成体験が出来た企画を行った。教室内はブルーシートを一面に貼り、魚や海藻などを多く付けた。更に、黒板にチョークで描いたサメは、クオリティーが高く、とても迫力があり、テーマ通りの装飾になったと思う。

そして当日は、文理の生徒だけでなく、多くの保護者の方にも来ていただき、二つのゲームの一つ、空気砲ストラックアウトの担当だった私は、慣れない接客に緊張しながら、クラスメイトと共に一生懸命に自分の仕事を行った。ハーバリウム作成券が無くなってしまった。二年三組は人気があった。

また、他のクラスを回り、どのクラスもクオリティーが高く、面白い企画を考えている。『あーこういう企画も出来るんだなあ』と感じた。

今年は緊張もあったが、昨年とは違う楽しさがたくさんあった紅葉祭になった。来年の紅葉祭でどのような企画をするのか、今から一年後が待ち遠しい。

二年四組 磯貝 光希

二年四組では『トイ・ストーリーパーク』を行いました。私は入口でアルコール消毒の係をしました。併せて「いらっ

しゃいませ トイ・ストーリーパークへようこそ」の声掛けも行いましたが、タイミングが難しかったです。それでも、沢山の人が来てもらえたので、とても嬉しかったです。

他クラスの企画を見に行き、その後、陶芸の作品を見に行きました。自分が選択科目で作った作品が飾られていてとても嬉しかったです。

ダンスの動画にも出ました。私は選択科目Bのダンス「No Rules」を踊りました。上手に踊れたと思います。

また、演劇部の舞台にも出ました。「教科書ブルース」に出演し、鉛筆役を演じました。セリフが完璧だったと先生に褒めてもらいました。今年は初めてお客さんの前で演じ、緊張しましたがとても楽しかったです。これから頑張ろうと思いました。

今振り返ってみると、文化祭、本当に楽しかったです。来年も今年のようにお客さんが入る文化祭が良いなと思いました。私はカフェをしたりワッフルを作ったりしてみたいので、飲食が出来たら嬉しいです。



三年一組 野口 真桜

今年度の文化祭は、今までで一番大変で、忙しい文化祭でした。その理由は二つあり、まず一つ目は、昨年度と違って、クラス企画については学級委員が主体となって動いたことです。クラスメイトに案を取ったり、前に出て司会進行をしたりと、とにかくやらなければいけないことがたくさんありました。私は昨年度まで、積極的に文化祭の活動に取り組んでいなかった為、どのように皆の意見を聴取してまとめるか、非常に苦労しました。しかし、今まであまり話してこなかった人と話すきっかけになり、自分の可能性を試せる機会にもなったので、今思えば本当に良い経験になったと思います。

二つ目は、演劇部のステージ発表です。昨年度まではお客さんの前で発表することがなかった為、とても緊張しました。更に、今回主役を演じさせてもらったので、長い台詞を覚えることにもとても苦労しました。また、ほぼ毎日練習があったので、体力がない私にとっては本当に大変でした。しかしながら、発表が終わった後、多くのお客さんの笑顔や拍手をもらい、普段味わうことのない大きな感動を味わうことができました。

今年度の文化祭を経て、非常に大変だったと思う反面、とても楽しく充実していたと実感しています。また、大きく成長できたとも感じています。今回の経験を、今後の大学生活でも活かしていきたいです。

三年二組 相馬 充香子

十一月十九日と二十日に高校生活最後の紅葉祭が開催されました。今年は、高校に入って初めて企画ができるので、とても楽しみにしていました。

クラスメイト全員で協力をして「きのこたけのこ戦争」を題材とした企画の計画や装飾の準備をしました。一番大変だったのは、きのこやたけのこのイラストに色を塗る作業です。途中でペンのインクがなくなるハプニングがありました。無事完成することができました。

文化祭当日は、外部の方々も沢山来てくださり、とても盛り上がりました。自分たちのクラスにも、想像していた以上に多くの方々に来てくれて、とても驚きました。射的の列がずっと途切れず、休むことなくコルク銃の弾を補充し続けるのはとても大変でしたが、高校生活で初めてやることとなった企画作りや接客は、将来に役立つ良い経験になったと思います。

高校生活最後の紅葉祭は、とても心に残るものとなりました。卒業しても、また紅葉祭を見に来たいと思います。

三年三組 トレウバエフ アマン

今回の文化祭は、僕たちの最後の大きな行事でした。昨年度までとは違い、ゲーム系の企画や舞台発表もありました。僕はボウリングが大好きなので、三年四組の企画がとても面白かったです。友人と一緒に企画をまわった

り、接客をしたことは、良い思い出となりました。

個人的に、今回の文化祭は大成功だったと思っていて、それは、準備から一生懸命に取り組んだからだと考えます。放課後を使い準備を進める必要もあり、とても大変でした。それ以外にも、シフトのグループに分かれて、接客の練習をしました。全力で向き合った結果、当日の来場者様への対応も上手くいったので、やりがいを感じました。装飾を片付ける際は、とても寂しく思いましたが、文化祭での写真をたくさん撮影したので、いつでも見返すことができます。写真をたくさん撮れて良かったです。

一年生の頃から、三回の文化祭を経験しました。どれも僕の中で素晴らしい思い出となっています。来年度以降の文化祭も、楽しみにしています。

三年四組 田中 優衣

十一月十九日と二十日に紅葉祭が行われました。私は、準備期間から当日まで、二つの思い出を作ることができました。

一つ目は、準備期間です。クラスの企画をより良いものにしようと、長い時間をかけて話し合い、準備をしてきました。私は、景品のキーホルダーを作る担当になりました。可愛らしいイラストを描いたり色を塗ったりして、お客さんに喜んでもらえるように作りました。友達と一緒に楽しみながら作ることができたので準備期間はとても短く感じました。二つ目は、学校生活で初めて接客をし

たことです。どのように接客をしたら良いのか分からず、当日までとても緊張していました。しかし、クラスの子ど、どのような対応をされたら嬉しいのかお客さん目線で考え、作戦を立てました。その結果、不思議と緊張も無くなり、接客も楽しむことができました。

最後の紅葉祭は、あつという間に時間が過ぎていきました。もう一度、紅葉祭をしたいと思ったと同時に、飲食の企画もしてみたいです。しかし、初めてのゲーム企画で様々なお客さんと触れ合えたことが何よりも良かったです。



保護者の皆様へ

十一月十九日(土)・二十日(日)の文化祭二日間には、全学年の保護者の皆様に文理学院にご来校いただきました。また、コンテスト用紙には、数多くの心温まるコメントを頂戴しました。

今年度、新型コロナウイルス感染対策に万全を喫しながらも、生徒による接客を行ったり、ステージで実際に発表が行われるなど、昨年度には実施できなかったことを新たに取り入れました。無事、実施できたことは、保護者の皆様のご理解とご協力があったおかげだと教職員一同感謝しております。生徒にとっても、大変励みになりました。厚く御礼申し上げます。

今後も、新型コロナウイルスの感染状況に最大限配慮しながら、生徒が高校生活の楽しい思い出を重ねていけるよう可能な限り行事を実施していきます。引き続きご理解・ご協力をよろしくお願い致します。

英語検定合格者

一年一組

大西 遙
島村 光桜
待鳥 正剛
嶋 一樹
高橋 明美
山田 煌大

二年二組

青木 優芽

二年一組

伊藤 大地
丹伊田 一輝

二年二組

井上 陽菜
岩松 昭衛

二年四組

平岩 望夢

三年一組

松坂 航平

漢字検定合格者

一年一組

鵜飼 扇ノ介
小野澤 柊子
高岡 のぞみ
大西 遙
十河 憩
高橋 明美

一年二組

石川 遥花
岡本 莉子
小澤 駿二
鈴木 登己
大橋 悠斗
小川 花美
清水 龍芽
鈴木 優希

一年三組

笠 馨太
千葉 伸作
中島 悠吾

一年四組

後藤 ころろ
山口 愛姫
中村 日香理

二年一組

伊藤 大地
高橋 晏斗

二年二組

岩松 昭衛
鈴木 武尊
藤田 千尋
栗原 寿々花
高島 和美

二年三組

林 鐘守

二年四組

君塚 和奏
萩生田 明里

三年二組

澤谷 優菜
長尾 彩菜

三年四組

小野 希恵
高芝 遼介

書写検定合格者

一年四組

湯ノ谷 奈那

二年一組

山田 裕高

二年二組

高島 和美
村山 咲羽

三年四組

岩田 伶志
長島 美菜
田中 優衣
堀 泰喜

「本気で取り組むこと」

バトラー マイケル

私は高校生の頃、勉強や部活、委員会、学校行事など様々な事に挑戦してきました。試験へ向けて熱心に取り組み目標より高い点数を取った時や体育祭などで努力して勝利した時は嬉しく思いました。

しかし、目標点に届かなかった時や負けた時は悔しく思いながら「苦手だから」と言い訳をして、真面目に取り組みようとしませんでした。これにより、進路活動では第一志望の大学への受験資格が得られず、私はこの時初めて「もっと本気で取り組めば良かった」と後悔しました。

私は「全てにおいて本気で取り組む」のは難しくとも、「何もせずにいる事ほど勿体ないことはない」と学びました。

このように、「出来ない」「無理だ」と言って諦める前に、どうすれば出来るようになるのか考えてみましょう。そして、どんなに遅くともしっかりと取り組めば、自身の成長に必ず繋がります。可能性が広がっていきます。

